

「PEG」を知っていますか ～PEGグループの活動について～

「PEG（ペグ）」という言葉を知っていますか。PEGとは、経皮内視鏡的胃瘻ろう造設術（Percutaneous Endoscopic Gastrostomy）の頭文字をとったもので、一般的には「胃ろう」と言われています。一言でいえば、食事を口からとれない患者さんの胃に、内視鏡を使って穴を開け、そこから栄養をとる方法です。20年くらい前までは、開腹手術で胃ろうを作っていたのですが、食事をとれず体力が弱っている患者さんが多く、身体的に負担が少ないPEGが主流になりました。

しかし、超高齢社会を迎えつつある現在、意識がない、または重度の認知症であるような患者さんに、延命のためだけに胃から栄養を入れ続けるPEGを行うことに対しては、批判が出ています。

PEGを行うべきかどうかは、一定の基準（ガイドライン）に従って決めるのではなく、患者さん自身や家族の思い、主治医の判断、また、胃ろうを作った後に自宅へ帰るか施設へ帰るかなど、さまざまな要素を検討して総合的に判断し、決定されるべきです。

以前は、胃ろうをケアする方法が院内で確立されておらず、問題が起こったとしても主治医が各々で対応していました。また、トラブルが起きたとき、対応について相談できる看護スタッフもいない状況で、院内で胃ろうを造設している患者さんをケアする体制の統一が必要でした。

そこで、当院では、平成24年10月に、胃ろう患者さんを専門にケアする「PEGグループ」を立ち上げました。

このグループは、消化器内科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、管理栄養士、内視鏡センター看護師、病棟看護師で構成され、胃ろうを造設している患者さんを1週間に1度、回診する活動から始めました。回診は約1時間程度で、悩みの多いスキンケアトラブルや、胃ろうの造設後・交換後のフォローを行いました。これにより、胃ろう部の周囲が化膿のうしている症例や、胃ろうが詰まってしまった症例などを発見することができ、迅速なケアに繋げることができました。

また、PEGを検討されている症例に対して、その適応や、安全に作るためのアドバイスなども行っています。

現在、院内では、毎月1回、PEG委員会を開催しています。構成委員間で情報を交換し、より良いケアのための問題解決の場としています。

「胃ろうが必要かどうか」「胃ろうを造設したが、どのようにケアすればいいかわからない」「交換時期が過ぎている、またはいつ交換すればいいかわからない」などの疑問がある人は、ぜひ相談してください。